

ちこり通信 2017



第10号 (2017.11.1)
発行: 獨協大学地域と子ども
リーガルサービスセンター

センター長挨拶 ～11年目を迎えて～

花本 広志 (獨協大学外国語学部交流文化学科)

すっかり秋も深まってまいりましたが、みなさまにおかれましては、それぞれの領域においてますますご活躍のこと拝察いたします。当センター11年目の年度も半ばを過ぎてしまいましたが、今年度のちこり通信をお送りします。

ご承知のとおり、本年度から、獨協大学内での当センターの位置づけは変わりましたが、センターの活動自体はほぼ例年どおりとなっています。日頃よりご協力いただいているみなさまには、あらためて御礼申し上げます。

さて、前号のちこり通信以降、センターのスタッフに変動がありましたので、すでにご承知の方も多いたは存じますが、これを機会にお知らせします。

まず、非常に残念ですが、2010年より相談員として勤務いただいた会田寿美さんが、本年3月末日をもって退職されました。ご尽力に感謝します。新たに、相談員として、昨年10月から木下沙綾香さんに、今年4月から内山明子さんに加わっていただきました。また、事務スタッフとして本年4月から、遠山直子さんに勤務いただいています。

木下さん、内山さんのお二人は、以前にもセンターのスタッフとしてご活躍いただいていた方ですので、今回の「復帰」は大変頼もしく思っている次第です。

本年度から、センターの位置づけが変わり、センタースタッフにも変動がありました。センターの活動自体は、これまでどおり行っています。今後も引き続きよろしく申し上げます。



目次

ページ	項目名
1	センター長挨拶 歴代センター長に寄せて
2	2016年度 センターの相談支援活動の概要(1)
3	2016年度 センターの相談支援活動の概要(2)
4	イベント、2017年の予定など

歴代センター長に寄せて

星島 由香 (相談スタッフ)

センター開所から今日までの日々は、たびたび「はっ！」とする瞬間に襲われ、「ここで起こっていることは本当のことなんだ」と我に返り、そして憤りや苦しさ怒りや困惑と戦ってきたように思います。そういった厳しい現実と向き合う環境でありながら、たくさんの笑顔や笑い声が響き、ぬくもりのある職場であることは救いとなっています。

初代センター長 野村武司先生、法律事務所所長 柳重雄弁護士、現センター長 花本広志先生の情熱が形となって、11年目を迎えた姿が現在ここにあります。その間の一番大変だった時期は、2代目センター長の徳永光先生と一緒に歩んでくださいました。しかも6年(正確には+1年で7年間)もの長きにわたって、私たちスタッフを支えてくださいました。最後に10周年記念行事と記念誌という大仕事をさせていただくことになりましたが(ほんとうに申し訳ない気持ちでいっぱいですが)徳永先生の細やかな視点と行動力で当初の予定以上のものができました。感謝しても足りないほどです。野村先生や新しい世界で活躍しているこれまで関わってくれたスタッフとともに、今後も私たちの活動を見守ってくださることを心強く感じています。



獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター

2016年度センターの相談支援活動の概要(1)

星島 由香 (相談スタッフ)
斎藤 恵美子 (ITスタッフ)



※受付件数

2016年度に、新規に相談を受け付けた件数は135件で、うち126件が埼玉県内からの相談でした。

新規相談のうち、一般相談(センターに相談対応を求めるもの)が113件、コンサルテーション(子どもに関わる機関・団体の関係者からの、子どもや親、関係先への対応や連携先についての相談)が22件でした。地域の学校や児童クラブや行政職からのコンサルテーションが大半を占めています。

センター開設以来、長期にわたり継続している相談ケースもあります。2016年度に対応した相談のうち、2015年以前からの継続相談件数は、53件でした。これらに新規受け付け件数の135件を併せ、2016年度中の対応相談ケースは188件ありました。前年度が166件ですので、22件の増加となっています。

長期間にわたり継続しているケースの中には、当初の問題が解決しないまま、子どもの成長にたがって、さらに新たな課題が発生しこじれているものもあります。急ぎ対応しなくてはならないこと、長期的な見通しを持って丁寧に支援する必要があること等、同時進行で解決に向けていく問題が多くなっています。このようなケースは問題が多様化しますので、短期、中期、長期と支援体制の見極めと、各関係機関の連携が重要になります。ありがたいことに地域連携は年々強化され、子どもの問題支援の環境は整ってきていると感じています。近年多く寄せられる子どもの特性からくる問題や課題は、周囲の理解が必要です。センターの開所当時に比べれば、かなり進んできていると言えますが、まだまだ対象児、対象生徒の困難さや苦しさはなくなっていないのが現状です。そういった状況の中、長く関わることができ、経緯を把握したうえで支援ができるセンターの相談体制は利点であるように思います。

新規相談については、受け付けを行ったうち101件は、センタースタッフによる傾聴や助言による支援を行いました。また、センターで相談を受けてから、他の専門機関等への紹介・移管を行ったケースが19件ありました。センターで毎月おこなわれている、専門家による面談相談につながり、そのまま医療機関や心理カウンセリングなどにつながったケースが14件です。センターの紹介・連携先としては、地域の子育て支援センター・発達支援センター、草加市立病院、獨協医科大学病院、文教大学臨床相談研究所、学校や適応指導教室などです。発達障がいや子どもの心理が診られる病院や療育機関は予約から受診までに数か月かかってしまう場合があります。私たちはその間の相談者さんの不安を少しでも軽減したいと考えています。保護者や園・学校・児童クラブ等と情報を共有し、子どもの気持ちに配慮しつつ、最善の方法を探したいという思いがあります。センターには、保健師や保育士の資格、幼稚園・特別支援学校・中・高の教職免許を持ったスタッフも在籍しておりますので、お気軽にご利用ください。

そのほかの紹介先としては、福祉・療育施設、臨床心理士、併設法律事務所以外の弁護士などがあります。最近の特徴として弁護士が訴訟ではなく調整役に入るケースが増えています。子どもの権利を守る専門家として強い味方であり、頼れる存在となっています。

◆2016年度新規相談件数

一般相談	113
コンサルテーション	22
計	135

◆相談対象者の所在地

県内	126
県外	6
不明	3
計	135

◆新規相談の支援等の状況

相談員による聞き取り助言	101
専門相談へ	14
他機関連携	13
他機関紹介	6
その他	1
計	135

◆今年度の対応相談件数

2015年度以前からの継続	53
2016年度新規受付	135
計	188



2016年度センターの相談支援活動の概要(2)

星島 由香 (相談スタッフ)
斎藤 恵美子 (ITスタッフ)

※相談内容

2016年度の新規相談の内容としましては、昨年同様子育て不安や家族関係の問題に比べ発達障がいを中心とした相談ケースが多い印象です。「発達障がい」や「自閉スペクトラム症」についてメディアでも取り上げられることが多くなり、関心が高まったことがその要因となっているのかもしれませんが、当センターにはこれまでも関連の蔵書はありましたが、栗原類さん著「発達障害の僕が輝ける場所をみつけれられた理由」を本棚に加えました。発達に関する相談は、保護者の方から寄せられることが多いのですが、子ども本人から学校でうまくいかないという相談もありました。友だちや教師との関係が悩んでいる場合が多くみられました。発達と関連し、不登校・引きこもりに関する相談も増えています。左の表の分類は最初の電話相談の段階での主訴を大まかに割り振ったものです。いじめや不登校、子ども同士の人間関係、非行のケースなどにも発達障がいや親子関係の問題が含まれている場合も数多くあります。最近の特徴としては、コンサルテーションが増加傾向にあるということです。学校等の初期対応の遅れが影響し、解決困難をまねいているケースが多くあり、保護者からだけでなく、学校関係者からの相談が目立ちました。初期の段階で学校がトラブルの当事者双方からどう聞き取りを行ったか、保護者との話し合いがどのように進められたか、聞き取りから得られた状況はどのようなものだったのか、それらをセンターでさらに聞き取り、整理していくうえで浮き彫りになったのは、リスクマネジメントの重要性です。また、なにより大きい事実、長引いてこじれたために失われた学校と保護者の信頼関係によって、もともと子どもの問題だったはずが、子どもが不在のまま進行してしまうことです。このようなことがないよう、センターでは子どもにとって最善の利益を優先的に考えます。ときには保護者や学校関係者の意向と異なる支援計画を提示することもあります。ご理解いただければと思います。保護者、地域の子育て支援施設と協力して、「子どもにとっての最善の利益」をしっかり支えていきたいと考えています。

※相談対応

2016年度の相談対応件数は、のべ1,195件となりました。電話での対応が主ですが、2回目以降は面談で継続というケースもあります。相談者は保護者でも、子どもから直接話を聴くこともあります。まずは年齢や発達を考慮したうえで、緊張を解きほぐすため一緒に遊びます。センターには室内用の砂場が用意しており、動物や木や山などを自由に配置してサファリや動物園を作る子もいます。心の縛りを解放して思いを語ってもらえるよう、あえて問題の核心に触れないで普通の会話ができるように心掛けています。子どもの心は大人が考えるよりも複雑です。実は家族のことで悩んでいた、進路に不安を感じているなど、原因が深いほど話してくれるまで時間がかかる場合がほとんどです。相談者・対象者のニーズにできる限り対応したいという思いから、病院の診察に付き添いをしたり他機関とのケース会議に参加したりすることもあります。

◆相談内容

発達障害	24
不登校・引きこもり	19
子育て不安	12
家族関係・親子関係の問題	11
その他	9
子ども同士の人間関係	7
養育・親権の問題	7
虐待・養育困難	6
法的支援	6
犯罪被害	6
離婚・DVの問題	6
いじめ	6
子どもの心理面での不安	5
非行・虐待	3
学校等の対応の問題	3
就学・進路の問題	3
体罰・暴言	2
総	135



◆相談方法

電話	889
来所	197
メール	53
その他	44
訪問	12
計	1195

◆対応内容

相談	719
連携・調整	237
その他	203
観察	14
経過観察	12
付添い	6
紹介	4
計	1195

2016年の活動

相談対応、専門相談など通年の活動を実施すると共に、例年通り、「おやこ大学」、「草加市共催子育て支援講座」、「夏休み企画：ワークショップ、大学たんけん」などのイベントを実施しました。それ以外にも、子育てフェスタ等の参加や園児向け自然観察会も行いました。

また、当センターが開設10周年を迎えるにあたり、2017年3月11日(土)、10周年記念行事としてシンポジウムと祝賀会を開催いたしました。シンポジウムは「10年間の活動を通してみた子どもの現状と専門家との連携」をテーマとし、作田亮一氏(獨協医科大学越谷病院)、布柴靖枝氏(文教大学)、林恵津子氏(埼玉県立大学)、杉浦めぐみ氏(草加市子育て支援センター)を外部よりシンポジストとしてお迎えし、120名を超える方々にご参加いただきました。10年に渡る皆様のご協力に感謝いたします。

なお、当センターにて、シンポジウムの内容を含む10周年記念誌を作成しております。ご希望の方は当センターまでご一報ください。

2017年の活動

センター主催 おやこ大学

当センター定番の講座「おやこ大学」を今年も開催しています。3~6か月前後の親子さんに参加していただくこの講座は、タッチケア、離乳食、スクラップブック、絵本とふれあいあそびの4回コースとなっております。その後も自主活動サポートいたします。一緒に学んだメンバーと様々な楽しみや学びを見つけていただいています。

センター主催 夏休みワークショップ

昨年大好評いただいた講座を、今年度も埼玉弁護士会にご協力いただき開催いたしました。知れば知るほど法律は身近なものです。講座に参加した小学生の皆さんは、その意外性を感じてくれたことと思います。

草加市との共催 子育て支援講座

草加市のアンケート調査で「開催してほしい講座」の上位に上がったものを参考にし、草加市子育て支援センターと当センターの担当で何度も打ち合わせを重ね、次の通り専門家のお話をお届けできることになりました。今年度も保護者、支援者の皆さんの興味や関心の高い内容となっております。

- 6月・7月 「上手にほめる 上手に叱る」1
- 7月 「シアワセを獲得できる子どもを育てるために」
- 10月 「上手にほめる 上手に叱る」2
- 11月 「イヤイヤ期からみえる子どもの発達」
- 12月 「子どものアレルギー講座」
- 1月 「学校における事件・事故とリスク対応」(仮題)

その他

- <<専門相談>> 医師・臨床心理士・教育カウンセラー・弁護士による無料面談相談
- 園児向け自然観察会開催(ホテルの幼虫放流など)
- おやこひろば「とらいあんぐる」(ハートライアングル共催)
- 地域で開催される子ども向けイベント(子育てフェスタ等)への参加
- 各所からの依頼による講演会の講師 他

【編集・発行】 獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター
〒340-0041 埼玉県草加市松原1-1-10 TEL: 048-946-1781 FAX: 048-946-1782
Email: kodomolc@dokkyo.ac.jp URL: http://www2.dokkyo.ac.jp/~kodomolegal/
電話相談 (月曜~金曜 9時~17時) 048-946-1771